

令和7年3月12日

目黒区立東根小学校
校長 高鍋 恭子

令和6年度 目黒区立東根小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和6年6月15日(土) 午前11時30分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
- (2) 第2回実施日時 令和6年10月31日(木) 午前11時30分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
- (3) 第3回実施日時 令和7年2月8日(土) 午前10時30分～午後1時
- ・学校公開参観
 - ・学校評価について検討

2 参加者

樺山幸彦 亀井亜佐夫 平井高士 高田嗣人 眞仁田治子 神田 亮

3 評価の結果等 ※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎地域による肯定的な評価は89%、保護者・教職員の肯定的な評価は94%を上回っており、学校教育全体への評価は概ね良好である。一方で、「学校は楽しい」と肯定的な評価をした児童は87%程度に留まっている。特に低学年においては、学級編成替え等による環境の変化への適応に時間を要することが一因として考えられる。	・40分授業午前5時間制により生み出された時間を活用して学年会等の時間を十分に確保し、児童の実態把握に努め、学年副担任も含めた包括的な学年経営が行われるようにする。 ・ふれあい週間での担任と児童との個人面談の実施のほか、新年度当初や長期休業明けのスケジュールに余裕をもたせることで、担任と児童が向き合う時間を確保し、より一層の信頼関係の構築に努める。	・学校全体の雰囲気が良くなっている。 ・年度初めと比べ、児童が、良い感じで集中しており、成長を感じる。

Ⅱ 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎今年度より教育目標の重点目標を「考える子」に設定した。その結果、保護者による肯定的な評価は 5 ポイント上がった。 前年度の教育活動を振り返り、活動内容や実施方法等の改善に努めたことも評価に繋がったと捉える。一方、地域による肯定的評価は22 ポイント下がっている。児童の実態に応じた重点目標変更の意図を十分に周知できなかったことが要因として考えられる。	・次年度も今年度と同様「考える子」を重点目標に位置付け、自ら考え、善悪を判断し、正しい行動ができる児童の育成に努める。 ・40 分授業午前5時間制開始にあたって混乱が生じないように、生活時程について保護者会等で十分に説明し、周知を図る。また、それにより生み出された時間の活用方法や教育内容について学校だよりや学年だよりをはじめ、学校評議員会・住区会議等でも広く情報発信し、理解を得られるようにする。	・教育目標や来年度から始まる午前5時間制について、児童や保護者、地域等へ情報を丁寧に伝え、理解を得られるようにする。
心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎児童による肯定的な評価は、低学年・高学年とも 90%を上回っており概ね良好といえる。保護者による評価は 83.6%で、昨年度より 3.2 ポイント上回っており、昨年度とほぼ同水準を保っている。今年度も、学校公開で、道徳授業地区公開講座を保護者向けに実施したことや、道徳科の授業の学びを生活の中で直接実践力として生かすことが求められている結果だと考えられる。	・全教育活動を通して、児童一人ひとりが道徳的実践力を高められるように、学年の教科担当を中心に、教材研究を行うとともに、道徳授業地区公開講座などで実践した内容を引き継げるようにする。 ・次年度も、道徳授業地区公開講座では、講師を招いて講演会を実施し、保護者の道徳教育への関心を高める。講演内容については、事前に教職員や保護者からの要望を聞き、より興味関心をもって参加できるように内容を検討する。	・道徳授業地区公開講座の内容について事前に希望調査をするのはよい。開催の時間や、講師などを十分検討し、より多くの保護者が参加できるよう工夫する。 ・道徳教育は、家庭が担う部分も大きい。家庭との連携が重要である。

Ⅳ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について	◎児童による肯定的な評価は低学年・高学年共に90%を上回っており概ね良好といえる。しかし、保護者による肯定的な評価は79%に留まっている。児童にとって分かりやすい授業が実践されている一方で、学力差に応じたより一層の指導の工夫が求められていると考える。	・前期には「自己選択学習」の一環として、児童が自分自身の伸ばしたい力を考え、自分でやり方を考えて取り組み、その成果を振り返ることができるよう取組を行い、一人ひとりが自分に合った学習の仕方を身に付けられるようにする。 ・40分授業午前5時間制を実施するにあたり、今年度の校内研究での成果を生かし、一単位時間ではなく、単元を見通した学習計画を立てることで学習活動のメリハリを付け、学習活動の充実化を図る。 ・学力調査や学習の確認テストなどの結果を基に、児童のつまづきを把握した上で、授業展開を工夫したり、個に応じた教材を用意したりし、全体の学力向上を目指す。	・児童がよく挙手し、発表する姿が多く見られる。コロナ禍で制限があった頃と比較すると、児童が活発に活動できておりよい。 ・ICT等を活用し、わかりやすい授業が展開されている。 ・児童は、学習用情報端末などの扱いに慣れ、プレゼンなども上手に行っている。 ・主体的に学ぶ児童の育成を目指し、より一層工夫した学習活動を期待する。
Ⅴ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎児童による肯定的な評価は、低学年で89.8%、高学年では、85.4%と昨年度より1~5ポイント程度下がったが、比較的高い水準を保っている。保護者の肯定的な評価は昨年度より0.2ポイント上がり、84.4%となった。「社会の力活用事業」から派遣された体育専門の講師が授業を行ったことや、OJTを通して体育学習について教員が学んだことを実践できたことが高い水準を保つことや、ポイントの増加につながった要因と考えられる。また、保護者からの評価は、体育的行事をコロナ前に近い形で行えたことも一因だと考えられる。	・OJTで体育学習について若手教諭を中心に、教員全体が学ぶ時間を設定していく。 ・外遊びの時間を確保するため、児童への声かけを常に行い、外遊びを推奨していく。 ・冬季の「なわとび月間」や「ペースランニング」などの取組をより充実させる。 ・「めぐろ ここカラダシート」を活用し、一人ひとりの体力や生活習慣の実態について保護者に情報発信していく。 ・健康トレーナーを活用し、体力作りの大切さを伝える。	・校庭の広さや児童数などから考えて、十分な運動確保は大変なことである。体育の授業を充実させたり、外遊びを推奨したりし、児童が体を動かし健康な体の基礎がつけられるようにしていく。

Ⅵ 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎今年度は開校 75 周年ということで、委員会活動を中心に、全校でお祝いする意識を高めることができたため、児童による肯定的な評価は、8.4%上回る結果になったと考える。 ●低学年は、学校行事に対する肯定的な評価の数値が下がっているの、自分の学年以外の取組も楽しみながら行事に参加できる工夫を考えていく必要がある。	・今年度から児童主体でクラブ、委員会・縦割り班活動が動くように計画した。徐々に成果が出始めているので、この活動を積み重ねていけるようにする。 ・教職員全体で共通理解を深めながら特別活動を進められるように意識していく。 ・保護者、地域の方々には、校内での活動の様子が伝わりにくい。学校ホームページなどで積極的に児童の活動の様子を発信していく。	・高学年児童が主体的に活動し、周年行事などを盛り上げられたことはよい。下学年の手本となり、次年度以降にもつながっていくことを期待する。 ・学校のさまざまな活動を保護者や地域に広く知らせていくことが大切。学校ホームページ以外でも活動の様子をアピールしていきたい。
Ⅶ 学校生活全般について ＜生活指導＞ ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎保護者の肯定的な評価は 84.6%となり、昨年度より 13.2 ポイント上昇した。各行事や学校公開での様子、学校ホームページ等での情報発信により学校の様子が保護者の目に触れる機会が増えたことが要因であると考えられる。 ●児童における肯定的評価は 85%を上回っているが昨年度よりはそれぞれ評価を下げている。これは学習や生活規律の上で、全校で共通した指導を粘り強く続けたが、各学級において指導が思うように通らない場面があったこと、児童同士や児童と教員の人間関係の複雑化や、その対応の難しさから、学校生活に不安のある児童もいることが要因として考えられる。	・「東根スタンダード」について、教職員、保護者、児童との共通理解を図り、粘り強い指導を継続する。 ・年度当初の保護者会で、「学校いじめ防止基本方針」を周知し、学校と家庭等が協力していじめ問題に取り組んでいくことを確認する。 ・日々の児童との関わりや、月一回のいじめに関するアンケートを通して、児童理解に努め、いじめ対策委員会や生活指導夕会での情報共有を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応について組織的に取り組み、安心して過ごせる学校を目指す。 ・学校生活に不安をもっている児童には、スクールカウンセラーや養護教諭など、相談したり話を聞いたりしてくれる人や場所があること、学習保障の方法も個に応じた対応があることなどを伝え、児童が安心して生活できるようにする。	・「東根スタンダード」の内容を見直し、実態に合った内容にする。 また、年度初めに、教職員・児童・保護者と共通理解を図った上で、継続的に指導を続けていくことが大切である。 ・いじめ把握は、アンケート結果と日頃の児童の様子を見取ったことの両方から行っていく。 ・民生委員は、地域で児童の見守りを行っているが、コロナ禍から、学校へ行く機会が減り、関わりづらい状況になっている。 次年度は、地域や民生委員の方にも学校行事や学校公開などへの案内を出し、学校との連携をより深め、児童の育成を進めていく。

<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎肯定的な評価は全体的に増えている。今年度は、実際に警察の方を招いて不審者対応訓練を行うことができたため、防災や防犯についての意識を高めることができたと考える。 ●保護者で肯定的評価が昨年度から 0.7 ポイント減少して 92.3%となっている。その要因としては、大きな自然災害が増えていることで保護者の安全指導への意識の高まりや家庭での指導の不十分さを感じる場面が増えていることが原因として考えられる。	・避難訓練や安全指導の後に、様々な時・場合・場面において、どのような行動や判断をすべきか学級指導をし、自分の行動を振り返る機会を設定する。 ・毎月の避難訓練や各学年のセーフティ教室の様子を学校ホームページに掲載するなど、防災や安全についての学校の取組を保護者や地域に積極的に発信する。 ・学期内や長期休業日期間中に「防災ノート」「GIGA ワークブック 東京」を計画的・効果的に活用し、防災や情報モラルについて家庭と連携して考える機会を設ける。	・日々の安全指導を全校で継続して行い、防災意識を高める。 ・地域の防災訓練や交通安全教室などに積極的に参加するよう呼びかけたりセーフティ教室などへの案内を発信したりし、家庭での防災意識をさらに高めるようにする。
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	◎教職員による肯定的評価は昨年度より 1.5 ポイント上がっている。十中校区あいさつ運動をはじめ、小学生と中学生、また、教職員が直接関わり合う様々な取組が充実した結果だと考えられる。また、近隣幼稚園や保育園と、低学年児童との交流活動も年々充実してきている。 ●保護者の約 20%が異校種交流について「判断できない、わからない」と回答している。活動の様子が伝わっていないことが要因として考えられる。	・これまでの活動を継続し、充実化させていくとともに、小学校から発信できる活動も考えていく。 ・小中連携、幼保小連携の活動について、保護者・地域への発信を充実させていく。	・中学校の案内などは、5、6年生だけでなく、学年のしほりをなくし、広く周知させていくことが必要。 ・1年生と保育園との交流は、今後も継続して行い、関係性を深めていけるとよい。

Ⅷ 情報の発信 ・学校の情報発信の充実について	◎地域・教職員による肯定的評価は98～100%と良好である。学年毎に学校ホームページ担当者を決め、学習活動や各行事への取組の様子を学校ホームページに掲載することにより、広く活動の様子が伝わったことによるものと捉える。 ●保護者による肯定的評価は79.5%と、昨年度より8.9ポイント下がっている。紙媒体による配付物を減らし、C4thHome & School による情報発信が多くなったことが一因として考えられる。また、保護者は、学校ホームページに掲載する内容以上に、学年・学級に関するより具体的な子どもたちの様子について情報として求めているものと考えている。	・学年毎の学校ホームページ担当者を中心に、各学年の活動の様子や学校行事の様子等を広く知らせる取組を継続して行うとともに、より一層内容を充実させていく。 ・C4thHome&School による情報発信について保護者に周知徹底する。 ・C4thHome&School を活用したり保護者会のもち方を工夫したりすることで、より具体的な児童の様子、学級・学年の様子を伝え、学校教育への一層の理解を図る。 ・児童が、家庭でも学校の様子を話すきっかけとなるような材料を提示する。	・学校のホームページを常に確認することは難しいのが現状である。 - また、C4thHome & School も便利ではあるが、見づらいこともあり、情報把握が十分ではないこともある。 ・あらゆるものが配信になりつつあり、情報過多で見落としも増えていると思われる。 ・学校ホームページの充実やC4thHome & School を活用することは、今後継続して行っていく。 ・人とのつながりを大事にし、伝え合う方法も検討する。
--	--	---	---